

インフルエンザについて（第12報）

今週は2014年の第11週です。薬局サーベイランスをみると、毎週月曜日ごとの推定患者数は第7週以降減少が続いています（図1）。一方、1週間ごとの累積の推定患者数では第9週で再び増加しましたが、第10週では減少がみられました（図2）。3月中旬の小中学校の春休みが始まるまでは、このような横ばい傾向の状況が今しばらくは続いていくと思われます。（図1、図2共にhttp://www.syndromic-surveillance.net/yakkyoku/yakkyoku_nippou/2013_14/index.html参照）。

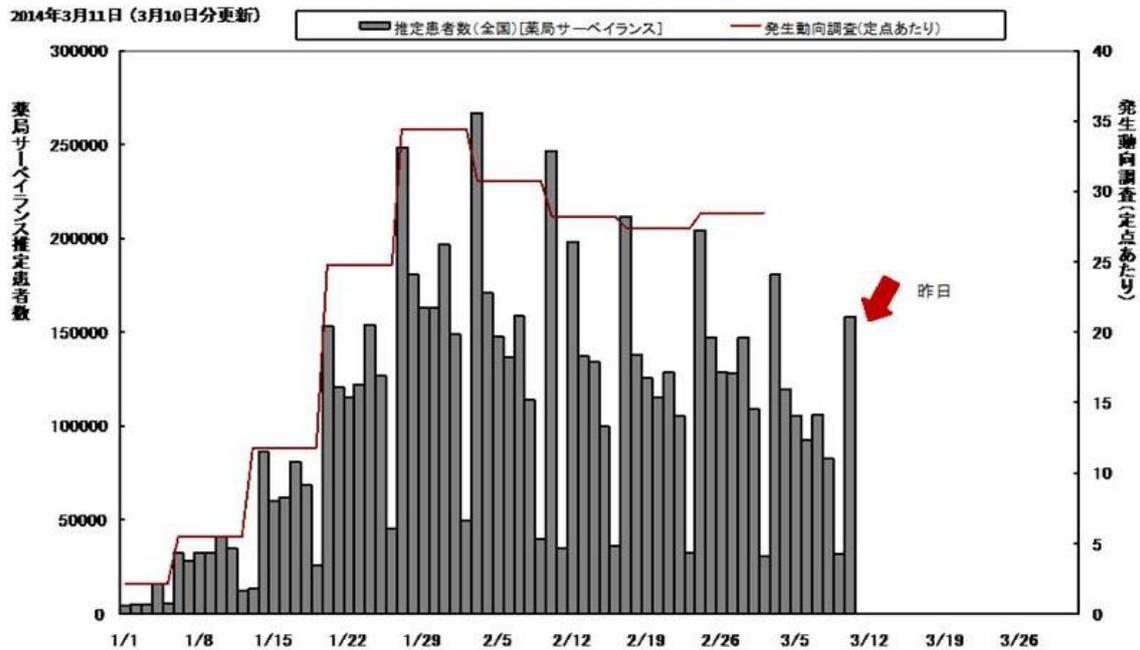


図1. 薬局サーベイランスによるインフルエンザの推計受診患者数の日別推移（2014年1月1日～2014年3月10日）

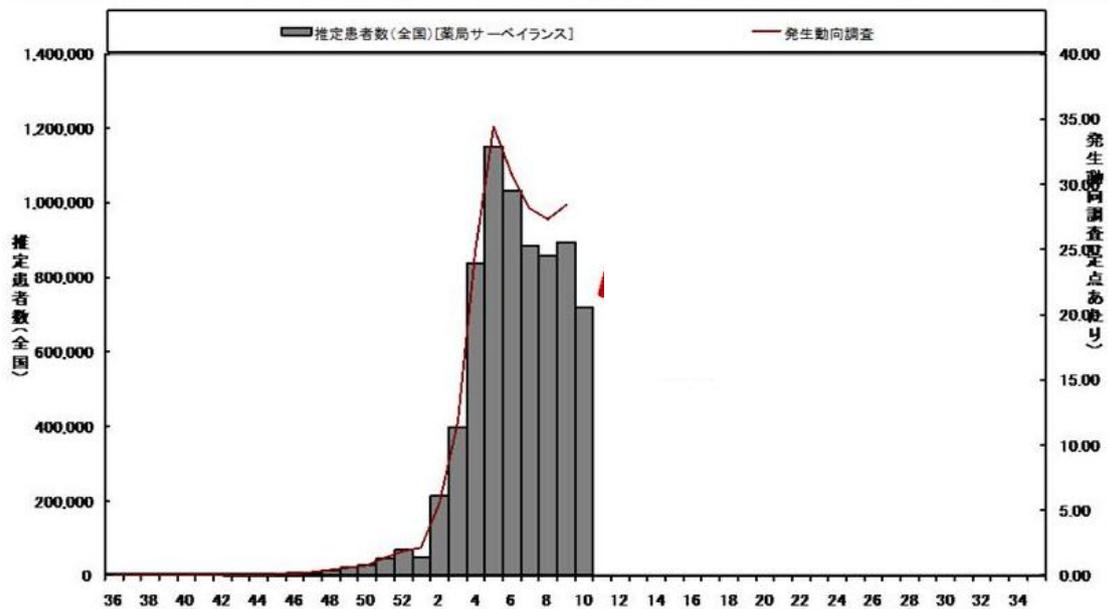


図2. 薬局サーベイランスによるインフルエンザ推計罹患者数の週別推移（2013年第36週～2014年第10週）

インフルエンザウイルスの日本国内の患者由来検体からの検出状況ですが、昨年9月からの、今シーズン（2013/2014年シーズン）を通しての累積の検出数（4061検体）ではインフルエンザA/H1N1pdm2009（以下A/H1N1pdm）が47.7%と最多を占めており、次いでB型（26.2%）、A/H3N2（A香港）亜型（26.1%）の順となっています（図3）。一方、直近の5週間ではA/H1N1pdm（51.4%）、B型（35.8%）、A/H3N2亜型12.8%の順であり、B型の検出割合の増加が続いています。

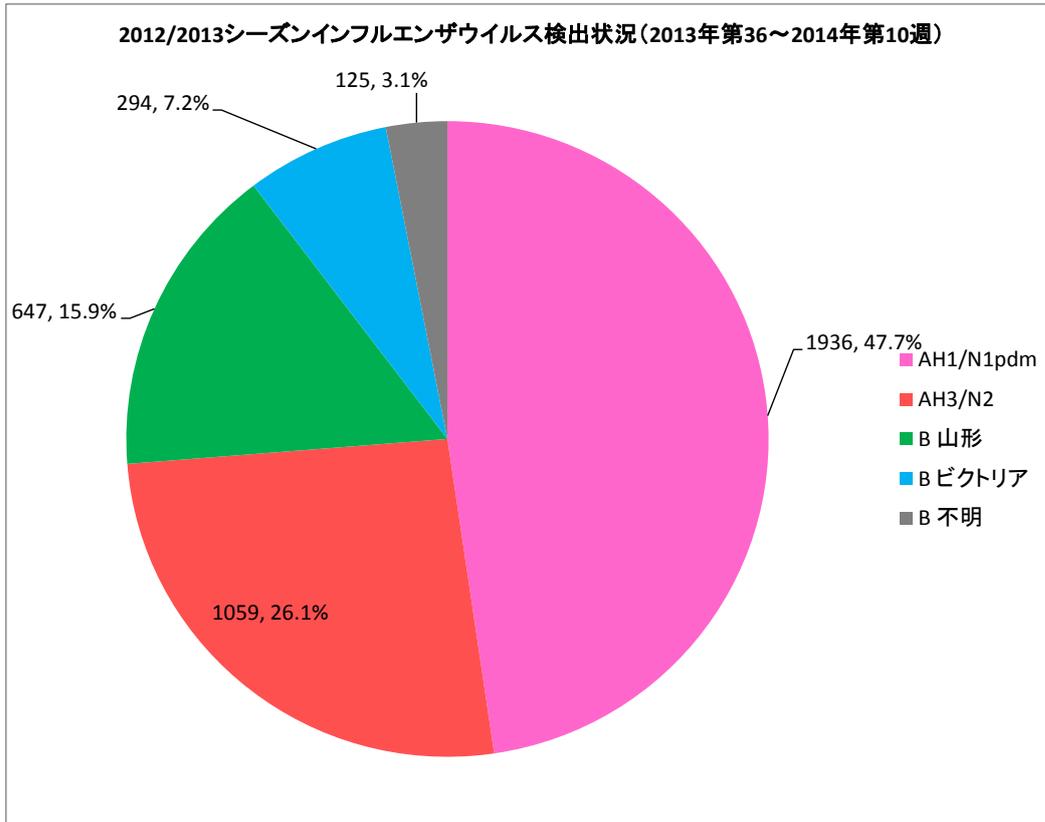


図3. 今シーズンのインフルエンザウイルス検出状況 (2013年第36週～2014年第10週)
 (国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> 参照)

今シーズンのインフルエンザの流行は本格化してからはインフルエンザ A/H1N1pdm2009が流行の中心であり、例年と同様に2014年第5週が流行のピークとなり、その後患者数の減少がみられたものの、第9週には再び増加し、第10週は減少したものの全体的には横ばい傾向が続いています。インフルエンザの流行はまだ落ち着いた状況とは言えませんし、B型インフルエンザの流行はまだ続きますので、3月中旬頃まではインフルエンザの流行には注意が必要です。

2014年3月11日
 大阪府済生会中津病院ICT
 安井 良則